

## 平成23年度第4回伊勢市環境審議会 概略

日 時:平成23年9月13日(火) 19:00~20:40

場 所:伊勢市役所東庁舎4階 4-3研修室

出席委員(五十音順):

天野委員、大西委員、岡委員、金田委員、川端委員、竜田委員、玉串委員、中川委員、中島委員、堀井委員、朴会長、坂内委員、深草副会長、船谷委員、松月委員、山本委員

オブザーバー:三重県環境森林部地球温暖化対策室 服部由直氏

事務局:

白木環境生活部長、山村環境生活部参事、坂本環境課副参事、環境課環境政策係 中内、松村、高橋

※【頁】内は議事録の該当頁

### ▼ “エネルギーの地産地消(案)”について

事務局説明【2-4頁】

◆前回(第3回)審議会及びワーキングにて頂いた意見のうち、以下の点について市長の意向を報告

- ・電気以外のエネルギー、また太陽光以外の自然エネルギーについてはどう考えるのか  
→中長期的な視点の中で「充分検討していく」ということを案中に記載させていただくことで整理させていただきます。
- ・目標値についての考え方と、達成のための具体的な取組の整理の必要性があるのでは。  
→目指す姿の30%とした理由は、「この地域として役割を果たしていくと呼びかけていくにあたり、強く意識をしてもらいたいという思いで、表に出させてもらった」ものであり、積み上げて達成するための具体的なものは、今現在ありません。

・地産地消(案)について、具体内容を検討し、温暖化実行計画と一緒にの時期に発表するようにはどうか。

→ “実行計画”については、分野、エネルギーの種別が多く、中身をしっかりと検討したうえで、具体的な取組等を謳ったものにしていただくことを当然優先するべきと考えます。ただ、“エネルギーの地産地消”に関しましては、来年度から是非実施していきたい内容をいくつか含めさせていただいております。実施に向けて、来年度の当初予算に反映がさせるためには、11月には議会等へ説明をする場を持たさせていただきたい。ですから、実際の審議会での“地産地消”に関するご議論は、今日とあと10月にもう1回でもって、答申をいただければありがたく思います。

◆“エネルギー地産地消(案)”の修正箇所について説明

P1 サブタイトル『～地域の発電と節電～』の追記

P2 修正箇所なし

P3 『アマテラス』プラン名称変更を検討中

P4 『プラン4』を『長期展望』とした。『また、～』の一文を追加

P5 プランの中に“暮らしのアドバイザー”の折り込みを検討中

P6 『長期展望』の項目を追記

委員意見

◆“エネルギーの地産地消(案)”について

- ・(案)内のプラン1～7は、一連にしない方が良い。【5頁】
- ・各“プラン”というものを付けなくても良いのではないか。【5頁】
- ・“プラン”内の“プロジェクト”は“事業”の方が良いのではないか。【5頁】
- ・“目指す姿”の図内、地産と地消の割合が、地産に比重を置いた図にした方が良いのではないか。【5頁】
- ・プラン内の“メガソーラーの設置”について、地元企業の振興という視点を含めて、協力的に実施してはどうか。【8頁】
- ・プラン4が長期展望になったとのことだが、4はなくなるということによいか？【8-9頁】
- ・サブタイトル“～地域における発電と節電～”とすると唐突な印象を受け、また、長期展望では、他のエネルギーについても言及していることから、背景等で電気に絞った理由を丁寧に書き込む方が良いのではないか。【9頁】
- ・各プランを取り組んだ場合の削減率を、参考に表記することで、目指す姿の30%実現がどれだけ大変かが、読んだ人に見えてくるように思う。【9-10頁】

◆答申について

- ・目指す姿等の説明責任を果たすため、答申書に次の一文の記入してほしい。【5-8 頁】  
『なお、目指す姿の目標数値、取り組むべきプロジェクトについては、国の今後のエネルギー政策を勘案し、適宜見直しをされたい。』

▼ “2005 年伊勢市二酸化炭素排出量推計”について

事務局 資料説明【14-15 頁】

- ・A3表の下部、三重県の数値 28,857 千tCO<sub>2</sub> → 28,540 千 tCO<sub>2</sub> に修正
- ・2005(平成 17)年を基準年とした理由について説明
  - 市町村合併以前の排出量データの把握が困難
  - 三重県地球温暖化防止実行計画における基準年に合わせた形
- ・表の読み方の説明
  - 表の縦軸が各分野、横軸が各分野で使用されるエネルギー源
  - 表内の網掛のない箇所 → 伊勢市独自で算出した数値
  - 表内の薄い黄色の網掛 → 三重県の按分値を元に算出
  - 表内の濃い黄色の網掛 → 国の按分値を元に算出
  - 表右端 各分野の CO<sub>2</sub>排出量
    - 各エネルギー消費量に排出係数をかけたものを合算し算出
  - 円グラフ → 各分野別の CO<sub>2</sub>排出量割合

天野委員 三重県内における伊勢市の特徴について説明【15-16 頁】

- ・CO<sub>2</sub> を 10 万 t 以上排出する大規模工場が、県内 20 のうち、伊勢市は 1 つ。
- ・エネルギー転換部門、工業プロセス部門(窯業土石関係など)が伊勢市にはない。
- ・県と比べて伊勢市のほうが、民生部門が相対的に多くなっている。

## 委員意見

・エネルギー種別のうち電気は、発電元によって CO2排出の換算は異なるのか？また、たとえば全部水力発電になれば、CO2はなくなるのか？【16-17 頁】

→排出係数は、水力、火力、原子力全部含めた数値になっている。原単価は施設建設にかかる CO2も関係しているので、水力、原子力のみになってもゼロにはならない。また、中部電力は、京都議定書に基づき CO2を売買していることにより、原単価が下がっているし、また、今年度原子力運転しなければ、来年度の数値は上がるだろう。毎年毎年変化する。

2010 年中部電力排出原単価 0.473(京都メカニズム不使用の場合)

※京都メカニズム使用の場合は 0.341

## ▼ “三重県地球温暖化防止実行計画(中間案)”について

### 天野委員 説明【19-21 頁】

◆本資料は、22 年3月、パブリックコメント実施時に公開した中間(案)である。

・目標

目標年(2020 年)までに 対 1990 年比で CO2 10%削減

対 2005 年比で CO2 20%削減

・基本取組

産業部門 … 地球温暖化対策計画書制度、省エネ診断・ミーモスの普及 など

民生事業部門 … 省エネ診断・ミーモスの普及 など

民生家庭部門 … 地球温暖化防止活動推進センターを通じた普及啓発 など

運輸部門 … エコドライブ など

◆地域特性

三重県における伊勢市の特性として“観光”が考えられる。他県の観光地で取り組まれている事例を参考資料として、資料9-10 頁に添付した。

## 委員意見

- ・鳩山元首相が発言した25%とはどういう関係があるか？【21-22 頁】

→25%は政府の公式的見解として今も生きている。

- ・森林吸収率が2%とのことだが、伊勢市は神宮林がありもっと数値は高くなるのでは？

→事務局が事前に神宮さんから参考資料をいただいている。次回数値を紹介したい。

→森林は、適当な伐採と植林によって、CO2吸収源として認めもらえる。三重県の2/3が森林であるのに吸収率が低いのは、適正管理がうまくいっていなかった。また、木の種類によっては樹齢によって二酸化炭素を排出してしまうこともある。

### ▼意見まとめ【10-13 頁、24-27 頁】

- ・ 背景、現況、目指す姿 は、“なぜエネルギーの地産地消なのか”を説明する重要な部分。流れが読めるような書き込みを検討されたい。
- ・ 長期展望には、実際は沢山の内容や取り巻く状況があるのに 1-2 行であっさりまとめられてしまっている。もう少し詳しい書き込みを検討されたい。
- ・ 地産地消プロジェクト内の予算額面は答申案には入れられないため、書き方の工夫を検討されたい。
- ・ サブタイトルを入れることはやぶさかではないが、“エネルギーの地産地消”としている以上、2頁の“地産地消”の説明を含め、記載方法を検討されたい。
- ・ 説明責任を果たすために「国等の動きを勘案し、適宜見直す」ことを、どこかで記載する必要性を検討されたい。
- ・ 資料送付を早めをお願いしたい。
- ・ 各意見の整理内容がわかる形での資料提示をお願いしたい。

### ▼ 次回

10 月下旬ごろをめどに、第5回環境審議会を開催予定。

以上

議事録については、別添のとおり。